

夢湧、夢に夢中

第 15 号

令和 8 年 1 月 9 日 文責：大谷

『才能を磨く』一年に

「令和八年はどんな年にしたいか」

新年を迎えると、毎年のように自分に問う。さて、今年はどうな一年にしたいか。

正月と言えば、わたしの風物詩は高校サッカーと箱根駅伝である。そこで、今年も慣例に逆らうことなく二大イベントを拝見し高校生や学生らのひたむきで清々しい姿を通じて前問を解こうと思いテレビの前に陣取った。すると、映し出されたある光景に懐かしさを覚えた。それは箱根駅伝の往路第五区の「小涌園前」だった。

わたしがこれまで出会ってきた教え子の中に二人の箱根ランナーがいる。二人は一つ違いの先輩後輩で中学時代はともにわたしが担当したサッカー部に所属していた。また、二人は駅伝の学校代表選手として長距離走にも取り組み、そこですっかり駅伝の魅力に取り憑かれ、高校は駅伝の名門校にそれぞれ進学した。その後、二人は当時、箱根駅伝の新鋭校として名を馳せた異なる大学に進学し、互いに箱根を目指した。そして、ひとりは大学四年時に、もうひとりは三年時に、まさにこの「小涌園前」を第八十四回大会で疾走したのだった。

わたしは箱根駅伝を走った経験はもちろんなく、いわゆる「山登り」区間の第五区を実際に歩いたこともない。ただ、わたしが通った大学が箱根に近かったため、車で通ったことは何度かあり、当時「こんなところを一気に駆け上がるのか」と驚いた記憶はある。そんな思い出しにしみじみしながら、ふと蘇った記憶があった。

「この二人に共通していたのは、諦めない才能と努力する才能が人並み外れていたこと」

「才能」と聞くと、おおよそ「生まれつき持つ卓越した能力」のことだと思われるだろう。だから、夢や目標を持っても、すぐに諦めてしまったり、何か継続してやろうと決めても長続きしなかったりする人は「そもそも才能がないからだ」なんて思うかもしれない。しかし、学校の図書室にある「例解 新国語辞典 第九版」で改めて意味を調べてみたところ、「才能」とは「ものごとをうまくやりとげる能力」とある。また、ある本には「(才能は)単なる先天的な素質だけでなく、訓練や環境によって開花します」とも。つまり、才能とは「ある」「ない」かではなく、本来誰もが生まれながらにして持っている「やりとげようとする能力」を「磨く」か「磨かない」かということであり、前出の二人は自ら身を投じた厳しい環境の中で夢に向かって仲間と諦めない才能と努力する才能を磨き続けた結果、箱根駅伝を走るという夢が開花したのである。特に後者は中学時代、全国中学校体育大会(通称「全中」)陸上競技大会の3000M走で当時の中学日本記録を塗り替えて優勝するなど華々しい実績を引っさげて県外の強豪校へ進学したものの、そこで思うように走ることができず耐えがたい挫折を経験した。一時は走ることにすら辞めたとも聞いていたが、彼は自身の諦めない才能と努力する才能の火を決して消すことなく、箱根のしかもその才能が最も試されるであろう山登りの区間で見事に再燃したのであった。素晴らしき才能である。

新春のやわらかな陽光に照らされた小涌園前を、今年はフレッシュグリーンの襷を掛けたランナーが信じられないようなスピードで颯爽と駆け登っていった。時代とともに価値観はめまぐるしく変化していかうとも、学生たちが日々磨く諦めない才能と努力する才能は、きつとも不変だと直感した。だから、わたしも倣って解を見つけた。いくつになっても生徒らとともに「才能を磨く」年にしたいものだ。

■新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。学校は、令和7年度の総まとめに向けて、学力充実はじめ様々な諸活動、そして何より3年生の進路実現と卒業式に向けて、職員一同鋭意取り組んで参ります。どうぞ3学期もよろしくお願いいたします。